

令和7年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

牛山小学校

1. 本校の教育目標

自らのよさに自信をもち、主体的に粘り強く課題に取り組むとともに、心身ともに健やかな児童を育成する。

2. 特別の教育課程の内容

（1）特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において新教科「書道科」を新設する。第1学年は、国語を30時間、生活科を4時間削減して新教科に充て、第2学年は、国語を30時間、生活科を5時間削減して新教科に充てる。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して新教科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々とのかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きるよさと愛着をもたせる。

また、「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

（2）特例の適用期間

平成27年4月1日～令和11年3月31日

（3）実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、（特別支援学級 単独でも実施）

（4）地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしている。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。それらを解決するため、前述した地域性や学校の特色、さらには書道の特性を活かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規

範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか

(2) 自己評価

児 童	<ul style="list-style-type: none">・姿勢や、鉛筆や筆の持ち方に注意して字を書くようになった。・とめやはね、はらいなどの筆の使い方が分かって、上手に書けるようになったと思う。・筆で字を書く練習をしたことを思い出して、国語や算数でも字を書いたらうまく書けるようになったと思う。・自分では失敗したと思った字も、先生によいところを褒めてもらえて、書写の時間に字を書くことが好きになってきた。・普段から、文字を書く時に、「はね」や「はらい」などを意識したり、字と字の大きさのバランスを考えたりするようになった。
教 員	<ul style="list-style-type: none">・書の時間は書写ルームを活用することで、スムーズに準備や片付けができ、落ち着いて取り組んでいる。・2年生から少しずつ毛筆の練習を始め、体験させたことで、本格的に書写の授業が始まる3年生の授業始めもスムーズに行うことができ、字を丁寧に書いたり、筆の使い方を学んだりすることができた。・講師の先生からも、個々に合った、よさを伸ばすような指導をしていただき、児童にとって楽しく有意義な時間が過ごせたと感じる。
保護者	<ul style="list-style-type: none">・書写の時間がとても楽しいようで、書写の時間の様子をよく話してくれるようになった。・作品を見るとのびのびと大きな字を書いていてほほえましい。鉛筆で書く字も上手になってくれればよいと思う。・大きな紙に書くなど、なかなかできない経験をさせていただいており、子どもによい経験や思い出になると思っている。・書道教室に通っていないが、楽しく取り組んでいるようで、ありがたい。

(3) 学校関係者評価

- ・ 掲示されている作品は、どれもびのびと書かれていて、それぞれ個性があって興味深い。書に低学年から親しむことで、楽しく取り組めているのではないか。
- ・ 子どもたちが、楽しく書に取り組むことで、文化の継承につながっていくとうれしい。
- ・ 書のまちとして、独自の取り組みがあることは、子どもたちが地域に愛着を持つことや、地域の特色づくりとしてよいと思う。